



学院時報

No.90

平成30年3月1日発行

聖ドミニコ学院

幼稚園・小学校
中学校・高等学校

〒980-0874
仙台市青葉区角五郎2-2-14
URL: <http://www.dominic.ac.jp>
TEL 022(222)6337
FAX 022(221)6203

北仙台幼稚園
〒981-0914
青葉区堤通雨宮町11-11
TEL・FAX 022(234)3615

子育てと言葉

中学校高等学校

校長 小笠原朋之



わたしには、二卵性双生児の姉妹がいます。子どもが小さいときは、

共働きの家内と交代しながら風邪を引いたといつては病院通いもしました。子どもが鼻を詰まらせているときには、子どもの鼻に口をあて鼻汁を吸い取ったこともありました。振り返ると懐かしいことばかりです。

子どもたちが三歳になるかならないかのある日のことです。私たちが夫婦が会話を交わしていた時、耳をそばだてて聴いている姿を目にしました。わたしは「おやっ」と思いましたが、私たち夫婦が交わす言葉を真剣に聴き取るうとしている様子が伝わってきました。子どもはこうして言葉を身に付けているのかと思いました。初めて子育てする私たちにとっては、驚きと同時に「ハッ」とさせられた瞬間でした。子どもの身近にいる人間の言葉遣いがどのよう

に影響するのかわ。乱暴な言葉を発していたら乱暴な子どもになり、互いをいたわるような言葉を発していたら優しく思いやりのある子どもになるのではないかと考えました。それからは丁寧な言葉を意識して子どもの傍で遣うようにしました。子どもの成長は親の成長でもあることを学びました。

私が平成二十三年三月まで勤めていた宮城県内唯一、三部制・単位制の東松島高校（東松島市に平成十七年四月開校）は、平成十八年から夏期演劇特別授業を行っていました。劇団「東京演劇アンサンブル」から五名の劇団員を招き、夏休みに入って間もなくの時期に四日間の日程で行います。参加生徒を十名程度のグループに分け、一つの台本を五分割し四日目の午後には、リレー形式で授業の成果を一般公開します。これまで生徒たちが演じてきた作品は、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』やブレヒトの『セチュアンの善人』などです。参加する生徒たちの中には、中学校まで不登校だった生徒もいます。他人とのコミュニケーションがとれない、人前で話すことができないなどの悩みを抱え込み、自尊感情を持てずに自分の居

場所が見つからないまま過ぎてきました。そういう生徒たちが四日目には舞台上立ち、役をとおして自分を表現できるようになります。なぜ、生徒たちは短期間の中でこの成長できるのか？そこには、指導される劇団員の方々が生徒たちと向き合い、あなたはこの役と決めつけない姿勢がありました。まず「聞く」ことから始まり、次に辛抱強く生徒たちの内面にある思いを「聴く」ことに徹し、「訊（き）く」ことにならけていきます。問いかける姿勢を貫きます。こうして、生徒たちは内面にある自分に気づかされ、本当の自分を発見していくのです。

コミュニケーションとは、まず相手を受け入れることから始まり、相手が何を伝えてきているのか、それを受け止め、丁寧に返してやる。言葉のキャッチボール、自分がないて、他者がいる。常に他者がいることを知り、相手を思いやる心が育まれていきます。言葉は理解する力の源であり、ここを育てる源です。そして考える力や判断力が育ち、課題解決能力を養います。子育ては、「あせらず・やすまず・あきらめず」、子どもたちの夢が打ちになるまで応援しましょう。

第四十回宮城県私学振興大会盛大に開催される

平成二十九年十月二十五日（水）、電力ホールを会場に「第四十回宮城県私学振興大会」が保護者・学校関係者一〇〇〇名を超える参加者と宮城県および仙台市の行政・議会関係者、来賓をお迎えして開催されました。

今回は、式典終了後に、本学院小学校合唱団ならびに中学高校バトントワーリング部、放送部が出演し見事な合唱と演技を発表し、大会を大いに盛り上げました。



聖書のいっば

「神よ、わたしのうちに清いところをつくり、わたしの霊を強めて、新たなものとしてください。」（詩編五十一：2）

伝統的にダヴィデの罪と悔い改めの経験がもとにあるとされるこの詩編は、最も深い「賛美の詩編」ともいわれる。「罪とは人間の傷のことで、傷とは自分が生きるために他者を犠牲にしているという痛み」の意識である」と言った人があるが、打ち砕かれ魂の底が割れた人間にして初めて与えられる「清いころ」が神の手によって新しく再創造されることを強く祈り求めている。

悔い改めは、神から与えられた他者への無償の愛に生きることに招かれていく幸いを得る機会でもある。続く十四節に「救いの喜びを私に返し、あなたの大らかな霊によって、わたしを支えてください」とあり、誘惑に引かれぬ確かな霊、正しくする霊によって救いの喜びと神の支えを失わないよう願っている。

人間の小ささと神の偉大さは表裏一体であるがゆえに、罪の告白が、神へのところからの願いと信頼、神への賛美に繋がっていくのであろう。

SR 柚木 洋子

幼稚園

園外仲よしランド

子ども達は「わーいー仲よしランドだ」と、ルンルン気分分で園庭に向かい、ドミニコ小学校のお兄さん・お姉さんと手を繋いで、広瀬川へ遊びに行きました。河原ではビンゴゲームを行い、小学生と共に虫を発見したり、地面に描ける石などを探索したりと、季節を体で感じながら、自然をたっぷり味わっていました。「ビンゴになったー!!」と、先生からキラキラシールをもらおうと、ペアの友達と大喜び！さらに、全部見つけようとする気満々!!交流を通して、園内の仲よしランドでは見られない子ども達の表情や姿が見られ、楽しく過ごすことができました。その後、園児だけの昼食！外で食べるお弁当は格別で「美味しいね〜」と友達と会話も弾み、ポカポカと温かい陽気に包まれ、充実した時間となりました。年に一度の小学生との園外保育は、子ども達にとっても普段できない経験や楽しい思い出となり、さらに小学生との繋がりが深まっています。



イベント

十月二十日に行われた未就園児対象のイベントでは二十一名の小さなかわいいお友達が集まり来てくれました。在園児の子ども達もみんなお友達が集まるのか、わくわくしながら待っていました。そして遂にご対面！挨拶や触れ合い体操を通して、少しずつ緊張を溶かしていきました。大アリーナの中は様々な遊びのブースが盛り沢山♪アンパンマンシリースにサーキット、果物釣り等々、子ども達は自由にそしてとても楽しんで遊んでいました。その中で、小さいお友達の手をとり、遊びの仕方を教えたり、誘導してくれる在園児の姿が見られ、心温まる場面もあり、優しい、思いやりを持って関わる姿に、縦割り保育で培われている心の成長を感じることができました。小さなお友達も次第に安心して親しみをもって共に過ごすことができたようです。遊びの終わりには「来てくれてありがとう」とメダルのプレゼント☆お互いが笑顔で仲良くなれた証です。この出会いを大切にしていきたいと思っていました。

劇

園ではイエス様のお誕生を迎える四週間前から待降節として心の準備をしながらその日を待ちます。待降節中は子ども達一人ひとりが考えた祈りをろうそくの火を灯しながら心静かに祈り、過ごしてきました。そして今年も家族の方の温かい雰囲気の中で見守られ、全園児で聖劇が行われました。



作品展

作品展では、「新たな発見の旅へ行く〜創造力に磨きをかけて〜」をテーマとし、一年間行った季節の製作物や、園児全員で力を合わせて作り上げた「海」の共同製作の展示を致しました。製作時には、捨てればゴミになってしまう廃材を材料とし、使い方によって素敵な製作物に大変身する発見を楽しみながら、取り組んできました。又、子ども達が日々自己選択をして取り組むお仕事の作品の展示。それぞれの教具、教材の仕方や仕組みを知りながら行い、時には苦戦しながらも、それを乗り越え完成した喜びを味わい、自分の力を信じてまた、次のお仕事へ。その事を繰り返し、一つひとつ大切に、取り組んできました。



一年間の子ども達の作品からは、それぞれの頑張りや伝わり、そして個性の溢れる展示となりました。子ども達も自分、そして友達との作品を見て、互いに達成感を味わうことが出来たようです。当日は沢山の方々にご来場頂きました事を、感謝致します。

北仙台幼稚園

年少

「バルバルさん」の絵本を基に劇を行いました。色々な動物たちがとこやさんでくるバルバルさんのところに変身しにやってくる子ども達が大好きなお話の一つです。中にはマイ絵本を買って頂いたというお話も！

練習の中でセリフや動物のやり取り、同じ役の仲間意識も芽生え、友だちと楽しそうに関わっている姿が以前にも増して見られるようになりました。また、役決め時には譲り合う姿も見られ、1歩ずつ成長中！今は年中児に向けて、「出来るところは自分でする」を目標に頑張っています。

年中

今年「ヘンゼルとグレーテル」の劇を行いました。このお話は少し怖い所があるため子ども達で話し合い、オリジナルの「ヘンゼルとグレーテル」にしました。それぞれの役になりきって物語を友だちと楽しみなが練習してきました。セリフや移動するタイミングも自分で考え、時にはお互いに教え合いながら、本番も自信を持って頑張りました。堂々とお客さんの前で演じられた達成感から様々な事に積極的に取り組む姿がより多く見られました。年長に向けて自分の思いを伝え、相手の思いを理解できるように練習していきたいと思えます。

年長

発表会で年長児は「いちばんはじめのクリスマス」というイエス様のご誕生の劇を行いました。クリスマスは何の日なのかという事を考えながら練習を進めていきました。一人ひとり自分の役を、大切に責任を持って取り組むことができました。当日は緊張の中でも堂々と大きな声で台詞をお話する姿は保護者の方も成長を感じたのではないのでしょうか。聖劇の練習を通して、自分のことだけでなく、相手のことも思いやる心、最後まであきらめない心を知り、ますます自信が付き、たくましくなった年長児でした。



作品展

今回の作品展は、子ども達になじみの深い十四匹シリーズの絵本の中から四季を表現しました。ねずみの大家族が自然と共に生きる世界を作るために時に友だちと力を合わせ、時に自分で考え黙々と作り上げました。当日はホールの中に飾られた作品を見上げながら、絵本の世界にタイムスリップしていた子ども達。他にも自分の顔を描いた絵や朝の時間に取り組んだ様々な作品も展示されました。そして、自分達の作品をたっくさんの方々に見て頂き、嬉しそうなお話も聞いた笑顔が園内に溢れています。



節分・豆まき

二月二日に豆まきを行いました。「おにはそと」の歌を歌ってから、節分ってどんな日なのか、どうして豆まきをするのかというお話聞いて、みんなで「おにはそと！ふくはうち！」の練習をしていました。赤鬼と緑鬼がやってきた練習の成果を出すべく、一生懸命鬼に向かって豆を投げます。怖くて泣いてしまう子もいましたが、上手に豆を投げる事ができました。鬼はみんなと仲良くしたくて幼稚園に来たようです！子どもたちは鬼と握手をして仲良くなりました。一年を健康に過ごせますように、楽しく豆まきをすることができました。



クリスマス礼拝会

クリスマスに向けて献金箱や心の花束を作ったり、待降節でお祈りをしながら準備を進めてきました。心の花束ではイエス様が元氣にお生まれになるように、クラスで優しい心や強い心はどんな事か話し合いました。子ども達それぞれが考えて行動し、心の花束に励んでいました。十二月十五日のクリスマス礼拝会では一生懸命に取り組んだ心の花束と献金箱を神様にお捧げする事ができ、とても嬉しそうなお話を聞きました。困っている方達のために一生懸命に考え、取り組めた事で、また一つ成長することができましたね。



「特別な毎日」

保護者の会長 奥山志帆子
「園長先生、おはようございます。」

「行ってらっしゃい。楽しんで。今日一日、宜しくお祈りします。」

毎朝三年間変わらず、正門の前で交わされたご挨拶。午後二時のお迎え。「一番に迎えに来て。」と言っていた我が子との五時間振りの対面。園庭でお友達と楽しそうに走り回る笑顔。その笑顔を見守りながらのママ友とのお喋り。

週始め月曜日と金曜日のお弁当作り。週末の上履き洗い、スモックのアイロン掛け。そして、また始まる一週間。

春の暖かい風の中を、夏の暑い日差しの中を、秋の綺麗な銀杏並木の中を、冬の強い北風の中を、毎日二人で笑ってながら自転車で行き帰りました通学路。

三年間、当たり前過ぎてきた幼稚園生活が、もうすぐ終わろうとしています。そんな当たり前毎日を過ごせたのも、先生方が優しく厳しく愛情を持ってご指導下さり、子ども達を見守り励まして下さったお陰です。また一緒に幼稚園生活を送ったお友達。そのお子様を大切に育てていらっしやるご家族。全ての方々のお陰で、笑顔いっぱい素晴らしい幼稚園生活を送れた事に心より感謝致します。

この当たり前で幸せな毎日がいつまでも続きますように。

小学校

本校の子供たちは様々な行事を通してクラスの絆を深めたり個人の力を伸ばしたりしています。

今年度は特に外部から講師の先生をお招きしての体験教室が沢山ありました。それらを通して知識を得て考え成長した子供たちの軌跡をご紹介します。

修学旅行で平和を学ぶ

六年間の集大成として三泊四日の日程で広島・大阪へ修学旅行に行きました。

二日目には平和記念公園を訪れ、被爆者である竹内さんの体験を聞きました。戦争とは何か。平和とは何か。一人一人が過去の現実と向き合い、未来へ向けてどうすべきなのかを考えました。

〈語り部 竹内さんの話を聞いて〉

六年 礎石 一葵

今回の修学旅行で、私の心に一番深く刻まれた出来事は、被爆体験者である竹内さんのお話です。竹内さんは、昭和九年八月八日生まれで、十歳の時に被爆しました。竹内さんは、祖父母と共に疎開していたおかげで無傷でしたが、実際に被害を受けた家族を探しに行き、そこで被爆してしまいました。その後、しばらく後遺症に苦しんだそうです。私はこの時、せっかく疎開中で難を逃れていても、竹内さんのように、家族を探して被爆してしまいう人もたくさんいることを初めて知りました。心がしめつけられました。また、家族を探す際に見た広島光景はとても悲惨で、道端に転がるたくさんの死体、水を求めてさまよう人々、



その人々は皆、皮膚がめくれ、垂れ下がり、まるでお化けの風貌になっていたそうです。私は、想像するだけで恐ろしく、考えること自体を拒絶してしまおうほど怖くてたまりませんでした。そのような体験をした竹内さんが、大切なことを話してくださいました。平和に一歩ずつ近づいていくために大切なことは、「自分が嫌なことは、相手にはしない」ということです。このことは、一見、簡単に出来そうなことですが、私は常に意識してないと自分本位の行動をとりがちになるため、実際に行動するのは簡単ではないと思いました。これからの私は、このことを常に意識して、行動していくことを決めました。

嫌なことは相手にしません宣言

六年 芹田 虎太郎

竹内さんが四年生だった時に、第二次世界大戦が始まりました。竹内さんには姉と二歳離れた妹がいて五人家族。お腹一杯に食べられる食糧がなく、子供たちも畑へ行ってはお国のために仕事をしていました。畑で育てた野菜やお米は竹内さん家族のところには残らず、食べるものがないので、お母さんが大切にしていた着物などと食物を交換していたそうです。物々交換が出来ない時には、ヘビを捕り、山菜を探って食べていたそうです。そんなことまでして戦争をしないと決めた竹内さんか？と僕は思っていました。

竹内さんが最後に話してくださいました。自分が嫌なことは相手も嫌がりませんか。いじめ、戦争が始まる

僕も「そうだな」と感じます。一番心に残った言葉です。人の意見をしっかりと聞けないといけません。自分の意見も話さなければ何も決まらないうちに決まってしまう。思いました。



「生きる」ことの素晴らしさ

六年 千葉 容子

私は、竹内弘さんのお話をお聞きして、とても感動しました。竹内さんは四年生の三月に妹と祖父と祖母と一緒に岡山に疎開しました。そして竹内さんが疎開した。その次の日に広島原爆を見た時、「弘、これは地獄じゃのう。」

と、竹内さんの祖父が言いました。この言葉をお聞きただけで、私には原爆のひどさがすごく伝わりました。さらに、三日三晩探した父と母が、最後に帰ってきた時のお話を聞いて、平和の素晴らしさが心にしみまじった。最後の最後に竹内さんは「生きる」ということは素晴らしい、自分がいやなこととは相手もいや、それを乗り越えて初めて思いやりが生まれるということも教えてくださっていました。このことに感謝し、思いやりをもって、誠実に真つすぐに何事も取り組んでいこうと思えました。



キリバス共和国交流授業

五月の後援会主催の講演会にお招きした、キリバス共和国名誉領事・大使館顧問のケンタロウ・オノ氏が、十月にキリバス共和国からの三名のゲストと共に、聖ドミニコ学院小学



校に再度来校されました。キリバスの民族衣装を身に付けて、にこやかに手を振り入場するみなさんを、子供たちの笑顔と拍手でお迎えしました。聖堂での歓迎セレモニーの後、会場を五年教室に移し、交流授業を行いました。五年生の子供たちにとって、お互いの国の文化の違いやキリバスが抱える問題などについて知り、そして考えるよい機会になりました。

キリバス共和国の危機

五年 林 杏奈

十月十八日水曜日、キリバス共和国の方々と聖ドミニコ学院小学校との交流会がありました。六年生が修学旅行に行っている間だったので、五年生が中心となって交流会が行われました。

キリバスの方三人、NPO法人の方二人、キリバス大使館顧問のケンタロウ・オノさんがいらしていました。キリバス語のあいさつや、キリバス語のじゃんけんなどを教えてもらいました。キリバスの方も私達も、笑顔になりました。

その一方で、キリバスにはとても深刻な問題がありました。その問題とは、二〇五〇年までに国の八割が水没してしまう、ということです。ケンタロウ・オノさんがこの問題について、くわしく教えてくださいました。

なぜ、キリバス共和国が水没してしまうのか。その答えは、私達の毎日の生活にあります。私達がエネルギーをむだ使いすることによって、上空のオゾン層がこわされ、海水の温度が上がります。そして、水が蒸発し、雲になり、雨がふらせます。雨がふったことにより水面が上がります。キリバス共和国のような海抜が一メートル五十センチ〜二メートルしかない低い島は、水没してしまいます。それが、二〇五〇年にまで迫ってきているのです。

でも、ケンタロウ・オノさんは、「人が犯してしまった事は人が必ず取りもどせる」と、おっしゃっていました。私はこの言葉が心にととまびきました。私達の過ちでキリバス、そしてまわりの島々の子供達の未来がうばわれてしまわぬ。そんな事はあってはいけません。強く思いました。

ちがひ

五年 室谷 あい

日本とキリバス共和国には同じところがたくさんある。太平洋にうかぶ島国だということ、同じじゃんけんをするということ、主食には米を食べるということ、そして、同じ地球に住み生活しているということ。これらはほんのひとりにぎりだ。

日本とキリバス共和国にはちがうところがたくさんある。日本には四季があるが、キリバスは雨季と乾季のみ。日本のあいさつは、朝には「おはようございます」、昼は「こんにちは」、夜は「こんばんは」と使い分けるが、キリバスは全て「マウリ」。日本には山がたくさんあり、キリバスにはサンゴの島がたくさんある。日本はいつか国がはずむことがない国、キリバスはいつか国がはずむかもしれない国。

日本とキリバスにはこれだけ同じところがあるのに、ちがうところを挙げていけば、きりがいほど出てくる。

今、キリバスは大きな問題に直面していると聞いた。地球温暖化によって海面が上りようし、二〇五〇年までに国土が半分になってしまうかもしれない。その主な原因が日本などの先進国にあるということも知った。

同じところとちがうところがあるキリバス共和国と日本。私は交流会で、日本は地球温暖化を進める国、キリバスは地球温暖化によって被害を受ける国なのでなく、お互いの国が支え合い、地球温暖化をくい止めていくと良いと思う。



全国教育美術展 内閣総理大臣賞 受賞

この度、教育美術振興会が主催する「第七十七回教育美術展」において、本校が学校賞として「内閣総理大臣賞」を受賞しました。

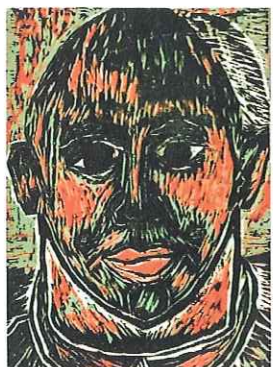
この美術展は、国内で最も権威ある子供の絵の展覧会の一つです。

以下に、この教育美術展において、指導に当たった教師と、作者である子供のコメント、特選、入選、佳作の入賞者一覧を掲載します。

本校の図工の取り組み

図工講師 飯塚みづ江

本校では六年間を通して版画指導に力を入れていきます。一・二・三年生では、ステン版画、紙版画、紙板凹版画を経験し、四年生で初めて木版画の学習をします。そして、六年生でドライポイント、五年生で彫り進み版画に取り組みます。また、一年生より毎年白画像の作品を仕上げています。白画像を描くことで図工の技術や感性の成長だけでなく、児童の心身の成長も感じることが出来ます。この作品は、彫り進み版画の技法を通して白画像です。三版の色の重なりや彫刻刀の彫り残しを楽しんでいます。児童の個性、表現したいという欲求が引き出せるよう、一人一人と向き合い、楽しい図工を目指しています。



つばきをとるねい

三年 佐藤 瑛太

長靴をはいたネコが主人様のためにウサギをとる場面を描きました。ふくろのうくらみ方やネコのもよぶを木物のように再現して描きました。表情が一番すきです。



指導者 飯塚みづ江

三年生で紙板凹版画を学習します。印刷後の版をそのまま捨てるのは何か寂しい気がします。版にクレヨン、絵の具で彩色、ニードルで彫った線に色を入れ込んだり、こすったり；また、新しい表現が広がりました。

ウサギをとろうとしているネコの表情、他の動物の入れ方、木々などの遠景の構成も考えた作品です。

私達の教室

五年 加藤 舞

毎日過ごしている教室です。一番気に入っている所は、横から見るテレビです。コンテの使い方が難しかったのですが、絵の具とコンテの黒の調和を工夫しました。



指導者 飯塚みづ江

今年の写生会では、校舎を描きました。毎日、何気なく見ている日常の風景から視線に触れたものを見つけて出すことから始まりました。コンクリートの強い柱、壁、金属のドア、ガラス、カーテン等それぞれの質感をコンテと絵の具で表

現しています。コンテの強い線やかすれが生きた作品です。

入賞者一覧

●特選

- 一年 菅野ひばり
- 二年 安田 理人
- 三年 佐藤 瑛太
- 四年 加藤 舞
- 五年 森山 友斗
- 六年 岡本 侑祐
- 六年 杉山 晏奈
- 六年 直之 開
- 六年 大泉 亜樹
- 一年 草野 雅迦
- 二年 遠藤 悠晃
- 二年 村田 護
- 二年 林 佳凜
- 二年 長澤 奈々
- 三年 森崎 一
- 四年 尾形 陽花
- 四年 都留 環希
- 四年 荒川真心美
- 五年 福本 弥生
- 五年 飯田 遼
- 五年 林 杏奈
- 六年 千葉 容子
- 一年 齋藤 風
- 三年 劉 靖之
- 四年 相田 陸翔

●入選

- 二年 林 佳凜
- 二年 長澤 奈々
- 三年 森崎 一
- 四年 尾形 陽花
- 四年 都留 環希
- 四年 荒川真心美
- 五年 福本 弥生
- 五年 飯田 遼
- 五年 林 杏奈
- 六年 千葉 容子
- 一年 齋藤 風
- 三年 劉 靖之
- 四年 相田 陸翔

●佳作

また、今回本校より特選に選ばれた児童の中から、五年生の森山友斗君にインタビューを行いました。

自分を表現する充実感

五年 森山 友斗

—自分の絵が雑誌に掲載されて、どんなことを感じましたか。
とても嬉しかったです。この作品は自分でも自信はありましたが、まさか自分の絵が掲載写真に選ばれるとは思っていませんでした。
—作品にはどんな思いを込めましたか。
白画像だったので、自分の顔に似るよう意識しました。また、夕日に照らされた顔をイメージして描いたので、光を浴びて力強い表情になるように工夫していきました。

—制作中に大変だったことは何ですか。
彫刻刀で細かい部分を彫るのが難しかったです。鉛筆のように思い通りにいかずに大変でしたが、彫刻刀の鋭い線を生かして彫ることができました。

—作品が出来上がったとき、どんなことを感じましたか。
彫り進み版画だったので、色が重なっていくところに気をつけて刷っていきました。刷り上がったときは、(イメージ通りの良い作品が出来たな)と自信がつかれました。

—最後に、これからはどんなことに取り組みたいですか。
今回、版画の楽しさに気付いたので、もっと色々な技法の版画に取り組みたいです。また、もっと色々な作品を見たいです。

いのちの授業

四年生の保健の出張授業で、メリーレディースクリニック・助産師の小野寺美樹子さんをお招きしました。

テーマは「いのち」。お話を聞いて子供たちは改めて生命の神秘や命を頂いたことへの感謝を感じたようです。

〈感想カードから〉

命を大事に

四年 眞木 泉

わたしは命が大事だということを知ることができて良かったです。赤ちゃんは子宮の中にいるときからずっと生きていて、0.1mmのときから成長していき、素晴らしいパワーを持っている事が分かりました。生まれる時に赤ちゃんは頭を小さくしたり、九十度回ったりしてがんばって生まれたからこそ、たくさん人の笑顔が生まれます。わたしもたくさん人の笑顔があったからこそ、今の元気な自分があり、みんな笑顔で過ごせています。世界中にいる人たちは全員大切に

な命なので、もっと自分の命と他の人の命を大切にしていきたいです。

一日一日を大切に

四年 川本 ひな子

私がおどろいたのは三百年以上前の実験で、私たちが今生きているのは家族に大切にされているからだとなりました。そして赤ちゃんは家族に笑顔をとどけるとても大切な存在で、お母さんも産んだ時の痛さはすぐ忘れたと言っていました。お母さんが産んでくれたので一日一日大切に生きていきたいです。

生まれて良かった

四年 古田 一也

赤ちゃんが生まれる時には、命の道、命の窓を通ります。どちらも赤ちゃんが自力で外の世界へ行きます。このことを知り、ほくほく感動し、色んな人に伝えたい気持ちになりました。ほくほくそんな風に生まれてきたことを覚えていません。だけど、生まれてきて良かったです。



モンテッソーリ教育を受けた子どもたち

幼稚園園長 森本 幸子



卒園、進級を前に、一年間の製作を一堂に集めて作品展が行われました。

作品としてモンテッソーリ教育活動の中から毎月製作物を何点か選び、一人一人の作品集として展示します。又、作品集に貼る事のできない地図や毛糸の作品、ユニット(折紙)等はパネルや机に展示します。一年間かけて積み上げてきた活動も多くの方々に観て頂けることは、子どもたちにとって大きな喜び、そして、次の段階へ進む励みとなっています。しかし、モンテッソーリ教育活動において、作品展で展示できる物は限られており、作品として残らない多くの活動があります。例えば、日常生活の練習の「花を生ける」「お野菜

子育てに思う事

北仙台幼稚園園長 齋藤 潤子



「子育て四訓」というものを目にしました。表現は多少違っていても、

- 1. 乳児はしっかりと肌を離すな
 - 2. 幼児は肌を離せ 手を離すな
 - 3. 少年は手を放せ 眼を離すな
 - 4. 青年は目を離せ 心を離すな
- 私は子どもたちと関わる時、申命記(6章5節)「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」の、主の部分、子どもに置き換え心に留め、接するように心がけています。

を切る「窓を拭く」等々、又、感覚教具、教具を使う活動の多くは作品としては残りません。しかし、どの活動も『自由に選び』『繰り返し活動』『集中する』『そして達成感、充実感の中に終える』というプロセスは同じです。昨年、将棋の藤井聡太四段で知名度上げたモンテッソーリ教育ですが、知的な面での興味、関心が多いうように思えてなりません。必ずしも有名になったり、社会的成功を治めなくても、モンテッソーリ教育を受けた子どもたちはいろいろな方法で自分の持っている力を豊かに使っているはず。自分と違う考えを柔軟に受け入れる力、しなやかに信念を貫く力、たくましく、楽しく生きる力等が備わるよう育っていくと私は感じています。つまり全人格的な面でもより良く生きる力が身に付く教育と言えます。九ヶ月になる孫が、日々、白らの発達課題を『繰り返し繰り返し活動する』ことで、身につけていく姿を目の当たりにします。そのエネルギーは

幼児期は人として生きるための必要な基礎を、自らの経験を通して学ぶ大事な時期です。心身共に発達途上にある幼い子どもたちの成長のため、関わる人々には忍耐を持って教え諭していく必要と努力が求められています。聖ドミニコ学院では幼・小・中・高まで在籍しておりますので、一人一人の個性や成長に合わせたかわり方や教育をしています。それは子どもたちの成長に伴い内容が変化してきて当然のことだと思っています。

大人になっても、いつの時代の親も子ども、どのような人でも抱える問題や乗り越えなければならぬ課題は多くあります。聖ドミニコ学院で出会った事・学んだ事・いつも神様が共にいてくださる事を忘れないで、これからの日々を幸せに過ごして欲しいと願っています。

圧倒される程力強いものがあります。この様な、子どもの自ら延びようとする生命力に答えるヒントがモンテッソーリ教育の中に豊かにあることは、大きな希望だと思います。

かかわり

小学校副校長 土井 智子



卒業アルバムには、卒業生が低学年だったころの写真も載っています。

まだ幼さが残る写真と成長して凛とした表情になっている写真を見比べてみると、児童期の六年間という時の流れの大きさを感じます。

成長しているのは、もちろん体だけではなく、心もです。卒業を前にした思い出作りとして、六年生は他学年とドッジボール大会やしっぽ取りゲームをしています。どの学年も六年生と関わるのが嬉しくて、喜んでその時間を過ごしています。低学年の喜びゲームを考え、手加減して関わる六年生の姿は自然体です。相手の立場に立った行動を意識しているわけではないかもしれませんが、一年生から続けてきたたいわい活動の中で、上級生はどうすればいいかを体得しているのです。

学校生活の多くの場面で、たてわりで人と人の関わりを持つ活動を継続することで、相手の立場を知り、自分の立ち位置を知ることができていきます。聖ドミニコ学院の教育は、キリストの教えのもとで行われています。自分を含めて人を大切にすることのできる人に育つことを目標としています。聖ドミニコ学院を巣立った後も、自分が相手のために出来る事は何かを考えられる人として成長することを願っています。あなたがたは地の塩、世の光である。 マタイ5:13-16

活躍するドミニコ中学生

- 2017年度ジャパンカップ個人中学生バドミントン大会 第5位 3年 清野 純花
- 第67回仙台市中学生英語朗読大会高円宮杯全日本中学生英語朗読大会仙台市予選大会 歌唱の部 奨励賞 3年 田中 礼菜
- 第4回千歳旗争奪少年剣道大会 中学生女子の部 優勝 剣道部
- 第36回マニシング&パントワーリング宮城県大会 3年 清野 純花
- 中学校2年の部 最優秀賞 御膳 志優
- 中学校1年の部 優秀賞 御膳 志優
- 中学校3年の部 優秀賞 菅原 尚央
- 仙台市中学校弁論大会 優良賞 3年 宇佐美萌香
- 仙台市中学校弁論大会 優良賞 3年 宇佐美萌香
- 中学生女子の部 準優勝 1年 山下 紗知
- 平成29年度仙台市中学校新人大会 研究の部 優良賞 1年 細持 燈
- 平成29年度仙台市中学校新人大会 剣道競技 青葉区 女子団体第1位 品川 杏里
- 2年女子個人第2位 品川 杏里
- 1年女子個人第2位 山下 紗知
- 仙台市小学校中学校読書感想文コンクール 奨励賞 3年 海老名 桜子 2年 佐藤 由菜
- 柳の葉剣道感謝祭 ホジション別 個人戦 第1位 1年 杉山 愛好香
- 宮城県中学校体育連盟 剣道専門部 優秀選手賞 美 萌香
- 宮城県中学校選抜個人剣道連成会 女子団体 第2位 剣道部 1年女子個人 第2位 山下 紗知
- 2年女子個人 第5位 品川 杏里
- 第85回全国書画展覧会 書画の部 筆都大賞 3年 2017仙台市下水道フェア 第32回「児童・生徒絵画コンクール」入賞 3年 菅原 尚央
- 河北新報社主催 第10回河北小中学生書道展 特選 3年 清野 純花
- 平成29年度 第25回下野杯争奪 中学校交流剣道大会 女子団体 Dリーグ 優勝 剣道部
- 東邦書道会主催 第60回記念全国書道展覧会 硬筆 特選 3年 清野 純花
- 平成29年度 柳の葉剣道感謝祭 第2回柳の葉カップ剣道大会 Eフロック女子団体 優勝 剣道部
- Eフロック女子団体 優勝 剣道部
- 平成29年度仙台市心の輪を広げる体験作文コンクール 中学生部門
- 優秀賞 2年 笹浦 志優 2年 庄子 美優
- 第35回東陵中学校選抜剣道大会 女子の部団体 第3位 剣道部 優秀選手賞 1年 山下 紗知
- 平成29年度 校内読書感想文コンクール 優秀賞 3年 海老名 桜子 2年 佐藤 由菜
- 優秀賞 1年 山下 紗知
- 第21回マニシング&パントワーリング東北大会 テライトフルワー賞 バドミントンリーグ部

活躍するドミニコ高校生

- 第50回仙台市少年剣道錬成教室大会 高校生女子の部 第1位 剣道部
- 仙台市武進まつり剣道 高校生女子の部 優勝 1年 米澤 愛蓮
- 第39回仙台市私立高等学校女子バレーボール秋季大会 スパイク賞 2年 志賀 通香
- 宮城県高等学校体育連盟剣道専門部 優秀選手賞

宮城県新人大会を終えて

バレーボール部 副部長 関本 朱花



私たちがバレーボール部は、宮城県新人大会ベスト4進出という目標に向かって日々の練習をしてきました。新人大会のシードを決める事前の大会では第四シードを獲得しましたが、新人大会では第五シードのチームと戦い、勝手がらないとベスト4には入れないので、大会までの期間はみんな必死に練習をしました。

しかし、大会前最後の練習試合では簡単などころでミスをしてしまい、勝てるチームにも負けました。練習試合で負けたことがありました。もうベスト4は諦めるような思いが過ぎたこともありました。負けたくないという気持ちの方が強く、部員同士で声をかけ合い互いに支え合いました。ご指導いただいた顧問の鈴木伸先生をはじめ、大会に向かってお手伝いをしてくださった卒業生の皆さん、保護者の皆さんの支えがあつての宮城県新人大会第三位という結果が残せたのだと思います。沢山の方々への感謝の気持ちをお忘れず、これからも日々の練習に取り組む、またバレーボール部を楽しまながら、部員全員で頑張っていきたいと思



中学校

中学校の三年間で

学んだこと

三年 宇佐美 萌香



(利府町立青山小学校出身) 私では、ドミニコで過ごした三年間でたくさん学んだことを学びました。特に心に残っているのは、ドミニコ祭と球技大会で協力することの大切さを学んだことです。

私のクラスでは、ドミニコ祭で三年連続お化け屋敷を出店しました。それに加えて、二年生の時には自分たちで作ったレモネードを売り、集まったお金を貧しい国の人々に送る活動をしました。この出し物が無事成功したのは、クラス全員が協力した

たからだだと思います。球技大会では、バレーボールが苦手な下級生に上級生が教えてあげたこともありました。中学校は一年生の人数が少ないので、三年生で一つのチームにならないといけないですね。上級生がみんなをまとめ、全員で協力したことで、楽しい思い出とすることができました。

時には意見が合わず、話し合いで探ってしまったりすることもありました。そんな時はクラス全員で、みんなが納得できるまで何度も話し合いました。そうすることで、自分の意見をはっきり述べることや、他の人に意見を譲ることの大切さ、一つのことに向かっ協力する楽しさを知ることができました。

修学旅行の思い出

三年 郷司 李聖



(聖下三三三学院小学校出身) 私達中学三年生は、十二月五日から三泊四日、伊勢・奈良・神戸・名古屋を巡る修学旅行に行っていました。

一日目は伊勢神宮の見学をし、外宮と内宮の違いや、神宮の歴史を知る事ができました。二日目は法隆寺の見学から始まり、木造建築を間近で見ることができ、歴史の重みを実感しました。その後はグループに分かれて奈良の白土研修をし、夜は二

職場体験を通して学んだこと

二年 小野 はるか



(塩釜市立第一小学校出身) 私達二年生の十一月三日間、職場体験に行きました。私の班はみやぎ生協さんにお世話になりました。

一日目の仕事はお菓子等の品出し、二日目は雑貨の品出し、最終日は一日目と同様にお菓子和コーヒー等の品出しを行いました。担当の太田さんに「品出しをする時は期限が遅いものは前に、早いものは奥に並べる」と教えていただき、とても勉強になりました。また、生協に出品しているお店の出動時間を聞きまして、五時半には来ていると聞き驚きました。

この三日間で、「挨拶の大切さ」が分かりました。お客さんに笑顔で元よく挨拶をするのがとても顔で返してくださるのがとても嬉しかったです。三日間という短い間でしたが、私達に優しく接してくださった太田さん、店長さん、店員のみなさん、本当にありがとうございました。



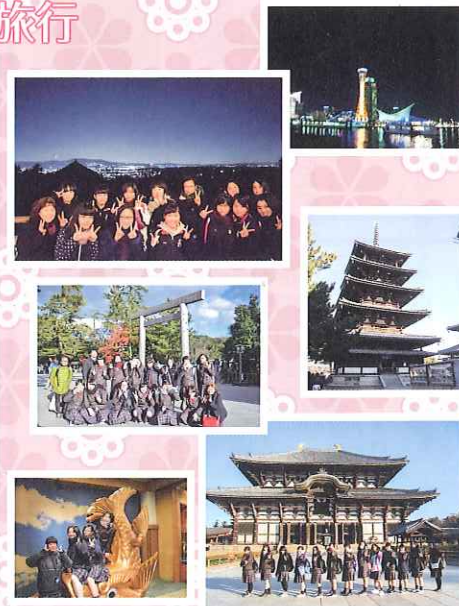
嬉しかったです。

月堂でナイトハイクを行いました。二月堂から見る奈良の夜景はとても美しかったです。三日目は東大寺の見学をし、鹿との別れを惜しみながら神戸に向かい、夜はとても楽しみにしていたディナークルーズ。船の上での食事や素敵な生演奏、そして夜景も素晴らしいかったです。四日目は名古屋に移動し、名古屋城を見学しました。実物大の金鯱にまたがって記念撮影をしたのも、良い思い出になりました。この修学旅行では伊勢・奈良・神戸・名古屋の歴史に触れ、学ぶことができ、とても充実していました。この素晴らしい経験を、今後の活動に活かしていきたいです。

中学3年生 修学旅行

行程表

日付	行程
12月5日(火)	仙台駅集合→仙台空港 →中部国際空港 →伊勢市へ移動 観光案内所 →豊受大神宮(外宮) →皇大神宮(内宮) →奈良に移動 奈良市ホテル泊
6日(水)	法隆寺 →自主研修 ホテル集合 ナイトハイク 奈良市ホテル泊
7日(木)	東大寺 →神戸へ移動 神戸市内ホテル着 →自主研修 ハーバーランド →ディナークルーズ 神戸市ホテル泊
8日(金)	名古屋へ移動 名古屋城 中部国際空港へ移動 →仙台空港へ



一年間を振り返って

青野木から始まる中学校生活、一年 御澤 音巳 (大崎市立古川第五小学校出身)



の思い出は青野木オリエンテーションです。青野木オリエンテーションは、一泊二日で新入生と二年生が共に行う、宿泊を通じたレクレーションです。自己紹介ゲーム、学校についての説明な

一年間を振り返ると様々な出来事がありました。その中でも一番の思い出は、学校やクラスにもすっかり慣れ、今の私の一番の楽しみは友達との会話です。四月になると後輩ができるので、私からは、先輩になりました。四月は笑顔で優しい先輩になりました。また、二度目の青野木オリエンテーションも、今からとても楽しみです。今後、勉強と部活動と生徒会活動を頑張りたいです。充実したドミニコ生活を送りたいです。

「旅立ちの歌」

三年 担任 木村 匡子



染な一と言ふなかれ

何を語ろうか考える日々でした。月日の経つのは早いもので、もう卒業なのですね。

やり残したことはないですか? やらずに終わってしまっただことはなかったですか? あなた達とはちよっぴり大人になった三年生の春からのおつきあい。口を開けば説教ばかり!?!?!の一年でした。ごめんない! 今振り返り、あなた達との思

い出を一言でいうならば、それは何と言ってもやはり「音楽」です。何より歌うのが大好き。もちろん歌が苦手な人もいたことでしょう。でも、一人ひとりが元気に、一生懸命に、歌っているハモッてる、思い思いに歌っているハモッてる。歌声はどんどん広がりが一つ一つになっていく。何と心地よい時間だったことでしょうか。いつもあんな達の歌声を聞きながら、いろんな伴奏をして楽しんでいました。

ありがとうございます。そんなあなた達の歌声を聞けるのもう最後ですね。卒業の日、それぞれの新しい世界への旅立ちの歌、十三人の素敵なハーモニーを聖堂いっばいに響かせて下さい。卒業おめでとう!

高等学校

感謝

前生徒会長

三年 早坂 瑞季

(仙台市立大沢中学校出身)



待って下さい、不安と期待が入り込んでいた日、ついに、三日前のこと

のように感じられます。そんなあつという間の三年間でも、それまで経験できなかったことに多く出遭い、多くを学び得ることができました。私の場合は、特に生徒会執行部での活動が高校生活をより一層濃いものにしてしてくれました。「どうせやるなら」と、どの行事にもこだわって当時のメンバーらしいあのメンバーだからでき

娘とともに歩んだドミニコでの三年間

後援会第三学年委員長 板場 香里

「ご卒業おめでとうございます。娘の三年間の高校生活におきましては、校長先生をはじめ諸先生方、関係各位の皆様には多大なるご支援を頂きましたことに感謝申し上げます。いつも生徒に寄り添い、人間的な素養を大切にされた教育をして下さった先生方に、心より感謝と敬意を表します。子ども達を温かく支えて頂きましたが、これからも人生の身近な存在であって頂きたいと切に願っております。

子ども達は卒業後、それぞれの進路を定め自分の道を進んでいくことになりました。長い人生においては目標に向かって様々な経験を積みながら歩んでいくこととなります。目標に向かうには緊張や勇気が必要です

ことをしてきました。常に新しいことを意識し具現化させていくことは予想以上に大変でしたが、やり終えたときの達成感はいつどの間にかクセになってしまっただけでした。生徒会活動をきっかけに他クラスや他学年、多くの先生方と関わることで増え、責任感を強める半面、ますます楽しく活動する時間も減りました。私たちの独特なこだわりに付き合ひ、支えてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

後輩の皆さん、決められた範囲内でも楽しむ方法はたくさんあると思います。その中でやりたいことを思いっきりやって悔いのない高校生活にしてほしいと思います。私達は楽しかった思い出も、失敗も、これから先全てを力に変えてそれぞれの道で頑張ります。三年間ありがとうございました！

が、常に最初の一步を大切に、歩み続けてほしいと思います。希望する結果ではなくても常に続ける努力を忘れないことこそが成功につながると思います。自信に負けず、困難に打ち勝つていく人生を歩んでください。親の私たちは一生あなたたちの近くに寄り添って応援します。

小さな学年、大きな翼

第三学年主任兼三年 組担任



小野寺 達也 保護者の皆様、ご息女のおめでとうございませう。

二年次より学年主任として務めさせていただきます。主任とは申しませんが全クラスの授業は受け持たせ、全生徒のことをなかなか把握できない心許ない主任でありました。

しかしご息女は、この疾風怒濤の三年間をそれぞれの翼で、それぞれの軌跡を描きながら飛びまわりました。強い向かい風に苦しんだ者もおりました。スタミナ不足でフラフラ揺られながら飛ぶ者もおりました。しかし三年間の航路を見事な飛びきった彼女たちは、自信を持って、自ら定める新たな航路を飛び立てて行けるかと確信しております。我々学年教員三名は最後の影が見えなくなるまで見守ってゆきたいと思えます。三年間の学年運営にご理解とご協力を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

さて、二組の娘たち、卒業おめでとう。この日がとうとう来てしまいました。あなたにとっては嬉しい日、私にとっては嬉しくも悲しい日です。あなたは自分の人生を歩いてゆくのだから背中を押してくれと言う理屈では分かっていても二年間で培われた「父としての思い」はあなたのその言葉を簡単には受け容れられないのです。わかつてあげなさいね。あなたの本当の親は、この私の何十倍以上の気持ちなのだ。難しい年頃のあなたと無難な距離を置きながらも、心はあなたと一時も離れずともにあるのだというところ。そう、あなたは愛されているのです。誰もが誰かの愛を受けているのです。迷ったらあなたの親の背にもたれなさい。そしてあなたの親よりも速く離れたもうひとりの故郷で、あなたのことをひとり思っている父を、時には思い出して訪ねてきて下さいね。

祝福を！娘たちの人生に。

自律のとき

三年一組担任 小野寺 達也



ご卒業おめでとうございます。振り返ると、路面はもちろん、運動会や球技大会など学校行事に常に全力で取り組むクラスでした。特にドミニコ祭においては、昨年度はバスタフフリット販売、今年度は特

進コースの一年生と合同でお化け屋敷を出展しました。それだけではなく、生徒会執行部やドミニコ祭実行委員、ポスターデザイン作成など、多くの場面で一組の皆さんの活躍を見ることができ印象に残っています。卒業後は、いよいよ本格的に社会人の仲間入りです。選挙権の十八歳引き下げなどに見られるように、今まで以上に大人としての様々な判断を自分自身でする場面が増えてくるでしょう。その時に、この三年間で受験勉強や学校行事の運営等の経験を思い出してください。必ず皆さんの糧となって助けられるはずですので、それを信じて全力で頑張ってください。これからの活躍を期待しています。

一期一会

三年三組担任 高橋 和代



ご卒業おめでとうございます。入学してきたのが、つい最近のことかのように時の流れは早いものです。私も、幸いにも三年間全クラスの体育の授業を担当させていただきました。どのクラスも常に元気いっぱい毎授業に行くと、各部門で入賞することができました。

三年生になって受験という大きな壁を乗り越えたい人、就職活動で一足早く社会人になる人、皆さんは、必ず一歩ずつ新しい道へ進んでいます。今後もし止まることなく前に進んでいく勇気を持ち続けて下さい。それぞれの場所で活躍されることを祈っています。

笑顔燦々

二年 早川 栞月(聖ドミニコ学院中学校出身)



私たちが二年生は十二月四日から四泊五日で関西へ修学旅行に行ってきました。まずは広島で原爆について学びました。被爆体験講話では、耳を塞ぎたくならないような話もあり、今の生活のありがたさを強く感じられた貴重な時間でした。また、倉敷と京都での自主研修も充実したものでした。私は特に倉敷での自主研修が楽しかったです。街並みがきれいでお店もおしゃれで、現地の方々の優しさを感ずることができた時間でした。そして、私たちが一番楽しみにしていたユニバーサルスタジオジャパンでは、キヤラクターグッズを身に付けて大満足の一日でした。五日間のどの日も学びがあり、笑顔が絶えない日々を過ごすことができました。その陰には、先生方の支えが数多くあり感謝の気持ちで一杯です。五日間で学んだことをこれからの日々を生かしながら、楽しかった思い出をいまでも胸に留めておきたいと思えます。

高校2年生 修学旅行

行程表

平成29年	主な訪問先
12月4日(月)	広島平和記念公園(被爆体験講話・平和記念資料館および原爆ドーム見学・平和式典参加)
12月5日(火)	厳島神社・宮島散策 倉敷美観地区見学・倉敷自主研修
12月6日(水)	ユニバーサルスタジオジャパン 園内自由行動
12月7日(木)	京都市内自主研修
12月8日(金)	金閣寺・三十三間堂・清水寺見学



平成30年3月 卒業生の進路決定状況

(平成30年2月28日現在)

- 【大学】
 - 上智大学 東北福祉大学(3)
 - 東北医科薬科大学(2)
 - 宮城学院大学(2)
 - 宮城学院女子大学(9)
 - 尚絅学院大学(2)
 - 東北工業大学(2)
 - 仙台白百合女子大学(8)
 - 東北文化学園大学(2)
 - 東北芸術工科大学(2)
 - 福島学院大学(2)
 - 文化学園大学(2)
- 【短期大学】
 - 仙台青葉学院短期大学(2)
 - 仙台赤門短期大学(2)
 - 聖和学園短期大学 大阪成蹊短期大学
- 【医療看護専門学校】
 - 仙台医師会看護専門学校(3)
 - 英会仙台看護専門学校(2)
 - 仙台徳洲会看護学校 宮城高等歯科衛生士専門学校
- 【専門各種専門学校】
 - 仙台幼児保育専門学校(6)
 - 東北電子専門学校(3)
 - 仙台医療秘書福祉専門学校(2)
 - 仙台医療秘書福祉専門学校(2)
 - 仙台保健専門学校 国際マール
 - チビネス専門学校 仙台総合専門学校(2)
 - 仙台デザイン専門学校 仙台ビューティーアート専門学校 仙台YMC A国際ホテル製菓専門学校 日本デザイン美術学院 横浜こども専門学校
- 【就職】
 - お茶の井ヶ田 メックアーバンリゾート東北 カラカミ観光秋保クランドホテル 協洋産業 KISEI